

# 森林やまがた

No.203

2023. 1



フォレスト  
サポーターズ

山形県森林協会は、「美しい森林づくり推進国民運動」を推進しています。



## 目次

新年のご挨拶 農林水産部森林ノミクス推進課長 2  
令和4年度川村造林記念山形県林業賞

清野忠市氏 大山進氏が受賞 3  
開学準備が進む「東北農林専門職大学(仮称)」の魅力

4

令和4年度山形県地域林政アドバイザー認定研修 5

第36回山形県きのこ品評会開催 5

山形県スマート林業研修会を開催

ー山形県林工連携コンソーシアムの取組みー 6

おしゃべりで「つながる」「ひろがる」

やまがたの森づくり発表会を開催しました 7

みどりのページ

一般財団法人田沢自彊会が

緑の少年団育成成功労賞を受賞 8

全国緑の少年団活動発表大会で

米沢市緑の少年団が発表! 8

東北・北海道地区の緑化功労者表彰 長堀一典氏 9

森林・山村多面的機能発揮対策交付金

令和5年度事業 9

分収林長期経営計画(経営改革プラン)を策定 10

国有林から 庄内森林管理署管内の  
海岸防災林の管理手法の検討について 11

森の人

菊地 貴之さん 樋口 兼光さん 12

普及情報

令和4年度研修実績及び今後の予定 13

フォレスト通信 農林大学校林業経営学科から

県外視察研修と地域連携課題プロジェクト

について 14

最上地域での「絆の森」の活動について 15

鮭川小学校3年生「きのこ学習会」開催 15

令和4年度クマ剥ぎ被害対策研修会の開催 16

「おきたま森の感謝祭2022」を開催 16

庄内森とみどりのフェスティバル2022

3年ぶりに開催! 17

「砂防林を育てよう」を開催しました 18

高性能林業新機械(タワーヤード)

導入研修会を開催 19

山形県の古木・名木

長龍寺のイチイ(上山市) 20

(表紙写真: 新雪の最上三十三観音第五番札所 唐松観音堂)

# 清野忠市氏 大山進氏が受賞

## ◆はじめに

本県林業の発展や振興に貢献した個人、団体をたたえる川村造林記念山形県林業賞の表彰式が、昨年11月24日に山形市のホテルメトロポリタン山形で行なわれ、吉村知事から表彰状と記念の盾が受賞者に授与されました。

本年度は、朝日町長から推薦のあった「清野忠市氏」と、戸沢村長から推薦のあった「大山進氏」が受賞されました。

## ◆川村造林記念山形県林業賞とは

川村造林記念山形県林業賞は、昭和6年12月から昭和7年6月まで、本県の第23代知事として在任した川村貞四郎氏から寄贈された山林を基金として、本県の民有林林業の振興・発展に顕著な功績のあった個人、団体を表彰するため、昭和39年に創設されました。

本賞は本県林業界における最高の賞であり、昭和40年の第一回表彰以来、本年度までに受賞された方の数は、個人66名、49団体、合わせて115者となっています。

## ◆清野忠市氏（朝日町）

昭和57年に山形県指導林業士に認定され、長年にわたり、地域の森林所有者に対する森林整備や施業技術等の普及に尽力されました。

また、町内の森林所有者で構成する林業グループ「朝日町愛林会」の会長を務め、町内の緑の少年団活動の指導のほか、地域児童の植栽・木工体験など、森と深く関わり、理解を深める活動にも積極的に取り組み、森林環境教育を実践されました。さらには、山形県指導林業士会会長として、指導林業士や青年林業士に対する技術指導等を行い、林業士の資質向上や林業後継者の育成に努めるなど、本県の林業振興に大きく貢献されました。

## ◆大山進氏（戸沢村）

山形県林業士会最上支部会長、角川県営林の巡視員、最上地域林業振興協議会委員などを務め、最上地域の林業振興と森林行政の推進に貢献されました。

また、林業士としての知識を活か

し、たらのめを生産するとともに、ふきのとう、ワラビなどの作付け導入により連作障害を回避するなど、多品目の山菜産地化に尽力。JAS山形ものがみ園芸生産組合の促成部会長として、促成栽培生産者を育成するなど、最上地域の特産林産物の生産拡大に寄与されました。



吉村知事を囲んでの記念撮影

## ◆おわりに

このたび受賞されました清野忠市様、大山進様に心からお祝いを申し上げますとともに、ますますのご活躍を祈念申し上げます。

〔県森林ノミクス推進課〕

## “やまがた森林ノミクス”を推進します 山形県森林組合連合会

代表理事会長 佐藤 景一郎

〒990-2339 山形市成沢西四丁目9番32号  
TEL 023-688-8100 FAX 023-688-8103

《県内13の森林組合とともに 山形の森林を守り 育て 有効活用してまいります》

山形地方森林組合	天童市森林組合	西村山地方森林組合	北村山森林組合	東根市森林組合
最上広域森林組合	金山町森林組合	米沢地方森林組合	西置賜ふるさと森林組合	
小国町森林組合	出羽庄内森林組合	温海町森林組合	北庄内森林組合	

# 令和4年度山形県地域林政アドバイザー認定研修

## ◆はじめに

令和4年7月から計5回にわたり「令和4年度山形県地域林政アドバイザー認定研修」を開催し、22名が研修を受講しました。

## ◆目的

平成31年度からスタートした森林経営管理制度を実行するにあたり、多くの市町村では、制度の実施を支える専門職員不足が課題となっています。そこで、市町村の支援を図るため、県では地域林政アドバイザー認定研修を開催し、人材育成を行っています。

## ◆内容

研修会では、森林・林業施策全般に関する基本的な知識を学ぶほか、森林経営計画に係るグループ討議や、現地演習により、実践的な技術を習得する講義もあり、施策の立案や関係者への指導・助言ができる人材を育成する内容となっています。今回は、その中から現地研修についてご紹介いたします。

現地研修では、山林に入り、樹木の生長に大きく関わる森林土壌の特徴を学んだり、葉の形・つき方から

樹種を判別しながら、伐採後の森林

で、天然力によりどのような樹木が育っているかの植生調査を行いました。参加者からは「実際に現場で体験することにより、理解が深まった」という感想や、今回学習した内容について、より詳しく教えて欲しいといった意欲的な意見が出されました。



現地研修の様子  
(林内での植生調査)

## ◆終わりに

今回の研修会で、全ての研修を受講した11名の研修修了者は、地域林政アドバイザーとしての活動が可能となります。今後もより有意義な研修となるよう、内容を検討し、引き続き市町村を支援してまいります。

〔県森林ノミクス推進課〕

県産きのこのさらなる品質向上を目指して逸品が集結！

## 第36回山形県きのこの品評会開催

〇きのこ生産者の逸品が集結

令和4年11月17日（木）から18日（金）の2日間、第36回山形県きのこ品評会が、新庄市の最上広域交流センター「ゆめりあ」を会場に開催されました。

この品評会は、きのこの品質と栽培技術の向上、きのこ生産者の生産意欲の高揚を図ることを目的として山形県山菜・きのこ振興会が主催し、毎年この時期に開催されています。

今年も県内各地から、生産者が丹精込めて栽培した生しいたけ、なめ

こ、えのきたけ、まいたけ、ぶなしめじの計50点が出品されました。

〇最優秀賞は佐藤順一さんに

1日目に開催された審査会では、梅津一寿森林研究研修センター所長を審査委員長とする15名の審査員により、傘の形や厚み、色など数項目について審査が行われ、佐藤順一氏（鮭川村）の生しいたけ（菌床）が最優秀賞の山形県知事賞を受賞しました。

〇2年ぶりに表彰式を開催

2日目には、ゆめりあ交流広場で2年ぶりの開催となる表彰式と、出展されたきのこの展示・即売会が行われました。当日は久しぶりの開催を喜ぶ声と、出品されたきのこのに感嘆する声、会場を訪れた方々から聞こえてきて、山形県のきのこの栽培技術の高さを多くの皆様に感じてもらえました。

県では、今後も県産きのこのブランド力のアップを目指し、品質向上に向けた取り組みを推進してまいります。

〔県森林ノミクス推進課〕



きのこの形状、色沢、均一性などを審査

# おしゃべりど「しなざる」「わんざる」 やまがたの森づくり発表会を開催しました

## ◆はじめに

県では「やまがた緑環境税」を活用した森づくり活動を広く発信し、県民参加の森づくりを推進するため、毎年森づくり活動発表会を開催しています。

今年度は、例年と趣向を変え11月21日(月)の平日に開催し、参加した29団体・企業全員がポスター発表を行い、「木育カフェ」で意見交換を行うという参加者主体の内容としました。なお会場は、山形国際交流プラザ山形ビッグウイングで参加者は69名でした。

## ◆ポスター発表について

これまででは、「みどり豊かな森林環境づくり推進事業」実施団体、市町村及び「やまがた絆の森づくり」企画企業・団体の取組みをポスターの形で紹介し、参加者は興味のあるポスターを見て回るものでした。

この手法では、参加者は一方的に見るだけのため、今回は団体・企業の説明者がポスター前に待機し、見る人と対話ができるものとなりました。ポスター発表が始まると、会場は熱

気に包まれ、説明者との対話が行われるところで行われ、参加者同士が熱心に話し込む姿も随所で見られました。予定していた1時間はあっという間に過ぎ、連絡先を交換する参加者もいました。



ポスター発表の様子



## ◆木育カフェについて

木育カフェは、井戸端会議のように手作業(木の小物づくり)をしながらおしゃべりをして、初対面同士が気さくに打ち解けて話ができる

ループディスプレイです。参加者は、4〜5人のグループに分かれ、森づくり活動に関する3つのテーマについて、意見交換をしながら、ブナのストラップを作る活動を行いました。

1テーマ20分としてテーマ毎にメンバーを入れ替えて意見交換を行いました。

テーマは、次の3つです。

① あなたの団体や企業の活動の特色や自慢できることは？

② これまでの活動で困った経験は何ですか？

③ 今後の活動で目指していきたいことは何ですか？

スタッフが進行役として入りましたが、グループによっては予想以上に盛り上がり、悩みを相談したり、意外な接点を見つかったりと参加者同士が気軽に意見交換する姿が見られました。



参加者が作成したブナのストラップ



カフェの様子



(県みどり自然課)

## ◆おわりに

平日の開催にも関わらず、当初の予定を超える参加があり、積極的に意見や情報を交換する姿が確認できたことから、今回のような参加者が主体的に関わる内容に手ごたえを感じたところです。県としては、今後も森づくり活動に取り組む団体や市町村、企業などの横のつながりを大切にしながら、森づくり活動の輪が一层広がるよう積極的に支援してまいります。

## 東北・北海道地区の緑化 功労者表彰 長堀一典氏

10月19日に北海道札幌市で開催された東北・北海道地区緑化推進協議会において、緑化功労者表彰式が行われ、各道県から7団体・個人が表彰を受けました。本県からは、長堀一典氏（酒田市）が表彰されましたので、ご紹介します。

長堀氏は、「眺海の森」で森の案内人として積極的に活動し、平成12年から眺海の森の案内人協議会会長を務め、会の円滑な運営に尽力しながら、眺海の森を訪れた方々を対象に森林や自然の魅力を広く発信されています。

また、宮大工として全国各地の神社・仏閣の建築に従事しており、その際に培われた木材に関する知識と経験を活かし、木工クラフトの指導者として活躍するだけでなく、他の森の案内人への技術指導も行うなど、活動に大きく貢献されています。また、地域の自然を熟知して行う自然観察のプログラム指導は定評があります。

長堀氏のこのような功績に心から敬意を表するとともに、今後益々のご活躍を祈念申し上げます。



表彰状を受け取る長堀氏

## 家具で「森を育てる」取組み

和だんすの再生を手掛ける「家具のヤマヒョウ」（山形市、井上英俊社長）様では、古くなった家具を再生販売し、売上額の50%を緑の募金に寄付していただく「森を育てる家具の市」と題した取組みを行っています。

家具の市の売上額は40万円を超え、21万2,500円が緑の募金として寄付されました。井上社長は、「緑の募金を活用した取組みは、木材を扱うものとして自社の理念と一致した」と述べられました。いただいた募金は山形県内の森林整備や緑化活動に有効に活用させていただきます。



目録を手にする井上社長と安達専務理事

## 森林・山村多面的機能発揮対策 交付金 令和5年度事業について

本交付金は、地域住民らが協力して行う里山林の保全管理や森林資源を活用する活動を支援する林野庁の補助事業で、当機構が山形県の地域協議会を担っています。

新たに令和5年度から活動したいというご相談については、1月末で締切りますので、お早めにお願ひします。申請に向けて活動内容や書類作成等のアドバイスをさせていただきます。また、取組みについてのご相談は、通年で随時受付けていますので、少しでも興味がありましたら、お気軽にお問い合わせください。  
〔公財）やまがた森林と緑の推進機構〕

## 「緑の募金」にご協力いただいた企業・団体のみなさま（R.4. 10. 1～11. 30）

### （やまがた森林と緑の推進機構取扱い分）

芦野工業(株)、衣袋建設(株)、(株)エージーオーコンサルタント、エムテックスマツムラ(株)、(株)太田製材、尾形興業(有)、(株)マツキコーポレーション、オビスン(株)、(株)柿崎建設工業、(有)家具のヤマヒョウ、(有)金山運輸、菊池商事(株)、(株)北山建設、(株)協同測量設計センター、(株)キヨスミ産研、(有)クリーンセンター七五三、(株)後藤工業、(株)斎藤建設、(株)三益堂、(株)サンユー技研、(株)三洋、(有)三立、(株)ジャワ商会、庄内ウッド、庄内環境緑化事業協同組合、(株)庄内銀行、(株)庄内測量設計舎、庄内たがわ農業協同組合、森林整備センター山形水源林整備事務所、須川工業(株)、(株)成和技術、お食事処SENKI千起、(株)全農ライフサポート山形、大伸建設(株)、(株)高橋組、(有)高橋林業、(株)丹野、中央公害清掃(株)、(株)東北工材、東北電機鉄工(株)山形支店、(株)トーホー、ナブテスコオートモーティブ(株)、(株)ナルセ、日本地下水開発(株)、農林中央金庫山形支店、(株)パスコ山形支店、藤庄印刷(株)、(株)マイスター、(株)デンソー山形、(有)マルソー、三ツ和工業(株)山形工場、(株)メコム、最上町みどり推進協議会、本沢郵便局、(株)八鍬建設、(株)山形銀行南山形支店、(公財)山形県産業技術振興機構、山形商工会議所、山形信用金庫、山形放送(株)、(株)山口工務店、山建工業(株)、(株)ヤマザワ、(株)横山測量設計事務所、浜理 P F S T (株)米沢工場、米沢松岬ライオンズクラブ、(株)ライナー、ロータス山形(株)、(有)渡辺商店  
(敬称略、五十音順)

ご協力ありがとうございました



## 国有林から 庄内森林管理署管内の 海岸防災林の管理手法の検討について

日頃より、庄内地域の国有林の管理経営にご理解とご協力をいただいておりますことに、心より御礼申し上げます。

庄内森林管理署は、約9万3千haの国有林を管轄しており、今回は、日本海に面する庄内海岸林についてご紹介いたします。

### ◆庄内海岸林に至るまで◆

庄内海岸林は、鶴岡市、酒田市、遊佐町の2市1町にまたがり、延長約34kmで面積約2千4百ha（うち約8百33haが国有林）にわたる海岸防災林であり、飛砂等から地域の皆様の生活や農業を守る重要な機能を果たしています。



現在はクロマツ林が広がる美しい海岸林ですが、江戸時代から様々な人たちによって植栽が続けられてきました。特に、戦中戦後の過剰伐採

による荒

廃を受け、

昭和25年

に海岸林

前線部の

約3百ha

を国が採

納を受け、

翌年から

国営治山

工事が開

始されま

した。そ

こでは、当時の酒田営林署長である

富樫兼治郎が確立した技法により、

前砂丘・主砂丘と呼ばれる人工砂丘

の造成や砂草の植栽で、風や砂によ

る植栽条件が大幅に改善され、クロ

マツ植栽を成功させました。このよ

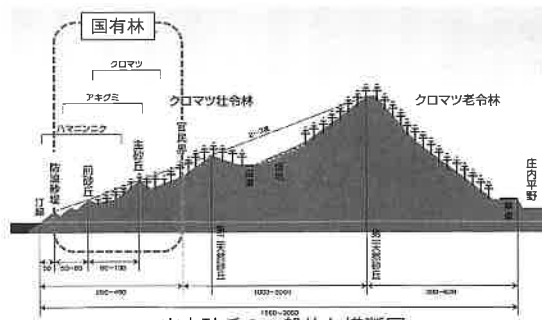
うな歴史的背景からも、国有林が海

岸林前線部を多く抱えているという

地理的な特徴が理解されます。(図)。

### ◆海岸防災林としての保育・管理◆

これまでの国営事業の結果、海岸林の造成は一旦完了しており、現在の施業の中心はクロマツ林の保育・



庄内砂丘の一般的な横断面

管理へとシフトしてきました。

しかし、燃料革命により、生活資材としてのクロマツの需要がなくなり、国有林でも密度調整が図れず、過密化が進み、下枝が枯れ上がった防風機能が低下してしまうなどの形状比や枝下率の高い林分も形成されています。さらに、昭和50年代からは松くい虫被害の蔓延も重なり、その荒廃が危ぶまれてきました。

このような中、平成14年に国、自治体、ボランティア団体等で構成する「出羽庄内公益の森づくりを考える会」が発足し、その公益的機能を守るための継続的な活動が進められてきました。

現在の庄内海岸林での施業は、「各々の経験や基準により担当者が判断し実施」、「維持管理へシフトしても造成時から引き継がれた方法で保育・管理を実施」しており、更に松くい虫被害跡地への植栽の対応が出てきている状況であり、現状のままでは海岸林全体の適切な管理が図りにくい状況となっています。これらの解決には、民国で共通の指針や認識を持って、一元的な管理を行うことが重要であり課題でもあります。

このため令和3年度には前述の森づくりを考える会の中に、関係部会

を立ち上げ、国と県の担当者、有識者間で民国共通の施業指針策定に向けた協議を重ねており、そこで、民国での施業方法の違いや見直しの必要な作業種の特定が必要であると示されました。庄内署としても県などの民有林関係者の協力のもと、各作業種の実施基準や方法を整理表にまとめ、有識者の助言も受けながら、各々の方法や基準が異なる作業種の特定と統一化に向けた課題と対応方針について議論を行い、植付での植栽本数などの相違点の特定にあたりました。

植付については、国有林が5千〜1万本/ha植栽なのに対し、民有林では2千本/haと大きな相違がありました。このため植栽本数に着目し、海岸林の防風機能には風による条件が大きくかわってくることを捉え、関係する条件を点数化し植栽本数を決定する提案をしているところであります。今後は、これに必要な風に関する調査データを蓄積し、エビデンスを示しながら、庄内海岸林の一元的な管理に向けた取組を進めて参りますので、海岸防災林の保育・管理と引き続きの松くい虫被害防除対策へのご理解とご協力をお願いします。

〔庄内森林管理署〕

# 令和4年度研修実績

## 及び今後の予定

### 【はじめに】

森林研究研修センター（以下センター）では、「やまがた森林ノミクス」を進展、加速させるため、ICT技術の導入等による木材生産等の効率化、高度な専門人材の育成、また、県・市町村職員の技術力向上のための各種技術研修を関係各機関と連携しながら実施しており、今年度は、16のテーマで延べ20回の研修を計画しています（下表）。この中から今回は、新規採用職員研修について紹介します。

### 【新規採用職員研修・3回実施】

令和4年度は、県庁3名、センター1名、庄内総合支庁1名併せて5名の職員が採用になり、すべての職員が3回の研修に参加しました。

1回目は5月、センターで県の総合発展計画や森林ノミクスの推進に関する施策、林務職員の組織の概要や予算見積書の見方など基礎知識の習得を目的に行いました。

2回目は7月、林木育種園を会場に、マツノザイセンチュウに抵抗性のあるクロマツを選抜するため、接

種検定作業を実際に体験したほか、特定母樹などの採種園を見学し育種の基礎について学びました。

3回目は10月に、実習林のスギ林で実際に森林調査を行い、樹高曲線図を使用した地位判定及び回帰式による樹高の推定と幹材積の算出について学びました。この研修には新規

## 令和4年度 山形県森林研究研修センターの研修等実績及び今後の予定

### 1 林業経営者等支援研修(林業経営体役員、指導林家、林業士、林業グループ等)

研修名	開催月日	場所	対象者(参加人数)	内容
森林作業道作設技術者養成研修	6/28~7/1	試験実習林(西川町)	森林作業道作設オペレーター(初級者)(6名)	・簡易で丈夫な森林作業道を作設できる技術者の養成
林業技術者技術向上研修	8/3	県民の森森林学習展示館研修室	林業経営体職員(3名)	・路網計画の基本的な考え方と、各種路網計画ソフトを活用した効率的な路網計画手法について
	11/9	試験実習林(西川町)	林業経営体職員(4名)	・高性能林業機械(プロセッサ)の基本操作 ・木の見立て方
青年林業士スキルアップ研修	7/1	マルカ林業苗畑、農林大学校	青年林業士等(39名(うち青年林業士15名、学生24名))	・カラマツの種子生産とコンテナ育苗 ・農林大学校学生との意見交換等
指導林家・林業士等研修	9/8	最上管内	指導林家、指導林業士、青年林業士、林業グループ(26名)	・先進的な森林整備技術や木材の利活用など、地域活性化につながる知識や技術の習得・向上
林業士(青年・指導)養成研修	1月(2日間予定)	研修館(寒河江市)	青年林業士候補者	・山形県林業士(青年)認定を受けるための養成研修
	2月(2日間予定)	研修館(寒河江市)	指導林業士候補者	・山形県林業士(指導)認定を受けるための養成研修

### 2 森林技術職員スキルアップ研修(県・市町村職員)

研修名	開催月日	場所	対象者(参加人数)	内容
基礎研修①【新任A g】	7/5	センター林木育種園(鶴岡市)	新規林業普及指導員(18名(うち、新規林業普及指導員3名))	・次世代型スギ品種育成事業について マツノザイセンチュウ抵抗性育種事業について(基礎研修②、技術研修④と併催)
基礎研修②【新規採用職員】	5/19	研修館(寒河江市)	県森林技術職員初任者等(5名)	・森林行政の推進に必要な基礎的な知識
	7/5	センター林木育種園(鶴岡市)	県森林技術職員初任者等(18名(うち、新規採用職員5名))	・次世代型スギ品種育成事業について マツノザイセンチュウ抵抗性育種事業について(基礎研修①、技術研修④と併催)
	10/11	試験実習林(西川町)	県森林技術職員初任者等(8名(うち、新規採用職員3名))	・森林調査の基礎(回帰式による樹高の推定と幹材積の算出など)
基礎研修③【林業機械(刈払機)】	6/23	研修館(寒河江市)	県・市町村の森林技術職員(13名)	・刈払機取扱作業安全衛生教育
基礎研修④【林業機械(チェーンソー)】	10/25~27	研修館(寒河江市) 試験実習林(西川町)	県・市町村の森林技術職員(12名)	・伐木造材作業者特別教育
技術研修①【特用林産】	4/21	センター敷地内(寒河江市)	林業普及指導員、県林技術職員(8名)	・原木ナメコの新たな栽培技術
技術研修②【伐木技術】	6/2	試験実習林(西川町)	林業普及指導員、県・森林技術職員(4名)	・安全性の高い伐木手法 ・森林施業に伴うリスクアセスメント
技術研修③【造林】	7/26	板井川公道造林地(鶴岡市)	林業普及指導員、県森林技術職員、森林組合職員等(14名)	・森林侵入竹対応マニュアル(山形県版)の解説
技術研修④【森林保護】	7/5	林木育種園(鶴岡市)	林業普及指導員、県・市町村森林技術職員等(18名)	・次世代型スギ品種育成事業について マツノザイセンチュウ抵抗性育種事業について(基礎研修①、②と併催)
技術研修⑤【森林利活用】	12/23(予定)	現地(置賜管内)	県・市町村森林技術女性職員等	・木材を使った商品開発と最近のマーケティングの動向
森林総合監理士等技術向上研修【林業経営】	10/28	真室川町	森林総合監理士、林業普及指導員、林業経営体役員等(32名(うち、対象者7名))	・ICT等先端技術の活用や高性能林業機械の導入等による林業成長産業化への取組み ・第2回山形県スマート林業研修会と併催
林業普及指導員全体研修	3月(1日間予定)	センター講堂(寒河江市)	林業普及指導員、県森林技術職員等	・普及指導活動事例報告 ・最新の林業技術に関する知識の習得



第3回新規採用職員研修(森林調査)

採用職員のほか若手職員も参加しましたが、林学を学べる大学の減少もあり、樹高や胸高直径の計測が初めてや輪尺などの用語も初めて聞くという職員もおり、今後、時代に合ったより丁寧な基礎的研修が必要だと強く意識したところです。

令和5年度も丁寧な研修に努めますので多くの方々の参加をお待ちしています。

### 【森林研究研修センター】

# 最上地域での「絆の森」の活動について

## ◆はじめに

最上地域では平成22年の「やまがた絆の森」立ち上げ当初から3つの企業が森づくり活動を実施しています。ここ数年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により活動が制限されていましたが、今年度はコロナ対策をしながら活動を再開したので紹介します。

## ◆開催状況

新庄信用金庫等による「しんぎん結の森・ぐるっと花笠の森【新庄】」の活動は、令和4年9月10日（土）に、新庄市五日町の森林で下刈りを実施し、8名の参加がありました。

（株）庄内銀行等による「荘銀かねやま絆の森」の活動は、10月1日（土）に、金山町金山の森林で高枝打ち作業と



9/10 しんぎん結の森



10/1 荘銀かねやま絆の森



10/8 かねやま絆の森

木の測定作業を実施後、農村環境改善センターで金山杉の特徴、及び金山町の産業や持続可能な街づくりについて学習し、25名の参加がありました。富士フィルムB-I山形（株）等による「かねやま絆の森」の活動は、10月8日（土）に、金山町朴山の森林で下刈りと枝打ちを実施し、29名の参加がありました。

## ◆おわりに

富士フィルムB-I山形（株）の新入社員の方からは「社外の方との交流も新鮮で、楽しく街を散策でき非常に楽しかったです！」という感想をいただきました。今後も企業の皆さんと協力し、活動が進展・継続の創意工夫により活動が期待されます。

〔最上総合支庁森林整備課〕

# 鮭川小学校3年生「きのこ学習会」開催

## ◆はじめに

最上地域はきのこの県内最大の産地です。中でも、鮭川村は県内生産量の5割以上を占めるきのこ王国です。最上総合支庁では、令和2年から鮭川村と連携して、この地域の将来を担う小学生を対象としたきのこ学習会を開催しています。

## ◆概要

今年11月8日（火）に鮭川小学校3年生向けに開催し、最上総合支庁と村内のきのこ生産者3名が講師としてお邪魔しました。

最初に、鮭川村でのきのこ生産の状況などをお話ししたところ、児童のみなさんから積極的に質問をいただき、意欲の高さが感じられました。続いて、学校でもきのこ栽培に取り組んでもらうため、しいたけの栽培方法を説明しました。準備として、栽培袋をカットして菌床をトレーに入れ、乾燥しすぎないように空気穴を開けたビニール袋を被せます。また、毎日行うこととして、霧吹きでの水やりや収穫の仕方を体験してもらいました。きのこ学習会後には、

実際に児童のみなさんがしいたけ栽培に挑戦しています。



きのこ学習会の様子

## ◆おわりに

最上地域における安定的なきのこ生産体制の構築に向けては、担い手の確保と産地力の強化が必要です。今回の取組みのように、小学生と生産者の交流を促進することで、少しでもきのこに興味を持ってもらい、将来の担い手確保や地元でのきのこ消費の拡大につながることを期待しています。

今後とも、最上総合支庁では、鮭川村をはじめとする市町村やきのこ生産者等と連携して、より一層地域の子どもたちが誇りに思えるようなきのこ産業にしていくため、様々な取組みを行ってまいります。

〔最上総合支庁森林整備課〕



# 「庄内森とみどりのフェスティバル2022」 3年ぶりに開催!

新型コロナウイルス感染拡大により中止していた「庄内森とみどりのフェスティバル2022」が鶴岡市小真木原公園と酒田飽海建設総合組合の2会場で3年ぶりに開催されました。このフェスティバルは森林・林業の重要性や県民参加の森づくり、地域産材の活用などについて広くPRすることを目的としています。

鶴岡会場は10月15日(土)から16日(日)の2日間、「つるおか大産業まつり」等との同時開催で行われました。酒田会場は例年同時開催していた「酒田市農林水産まつり」が、新型コロナウイルス感染状況等を考慮し中止となりました。そのため、



酒田会場

10月30日(日)に小規模ながら単独で開催しました。

今年も両会場とも天気にも恵まれ、3年ぶりということもありたくさんの方で賑わいました。鶴岡会場では二日連続で木工クラフト体験をしに来てくれた親子もおり、待ちに待ったイベントのようでした。



木工クラフト体験

今回新たな試みとして、両会場できのこ振興のための体験ブースとして「サンドイッチ式短木栽培」のきのこ(なめこ)植菌体験を行いました。これは、短く切った丸太と丸太の間にキノコ菌とオガクズ等を混ぜ合わせたものを植え付ける方法です。一般的な駒打ちとは違う植菌方法と



きのこ植菌体験

ということや大径木の広葉樹でもできるといふこともあり、立ち止まって興味を示す方が多くいました。

体験した方は熱心に作業を行っており、持ち帰ってからの管理方法についての質問も多く、なめこが出てくるのを楽しみにされていました。数量限定の体験コーナーでしたが予約不要の鶴岡会場では早々に予定数に達し、関心の高さがうかがえました。今回は新型コロナウイルス感染症予防対策を万全にした上での開催で



きのこ植菌体験



丸太切り体験

あったため、例年行っていた子ども対象の丸太釣り、きのこ汁のふるまいや緑化樹のプレゼントなどの人が密集するイベントは行うことができませんでしたが、林産物の販売等に多くの方々が足を止めて楽しまれました。盛況のうちにフェスティバルを終えることが出来ました。

〔庄内総合支庁森林整備課〕



鶴岡会場

# 高性能林業新機械（タワーヤード） 導入研修会を開催

山形県森林協会

山形県森林協会では、11月に鶴岡市関川で高性能林業新機械（タワーヤード）導入研修会を開催しました。山形県林業統計（令和2年）によれば、県内で高性能林業機械は204台が保有されておりますが、まだタワーヤードは導入されておられません。それだけに今回の研修会は大きな関心を集め、林業事業者等から40名の参加がありました。

## ◆はじめに

温海町森林組合では、急傾斜地や作業道開設ができない場所などでの間伐や皆伐等の集約化を考えた場合、今後は、架線集材の作業システムも必要になるとの考えから、県外の架線系作業システムの先進地を視察してきました。

タワーヤードをぜひ試用してみたいと考えていたところ、関係事業者から視察先と同機種を借りることができることとなり、十日間の操作研修を受講してタワーヤードによる搬出技術習得に努めています。

タワーヤードによる集材は、なか



搬器の動きを見守る

なか目にすることができないことから、温海町森林組合からの全面的な協力を得て開催いたしました。

## ◆ワンダー フアルコン

タワーヤードワンダーフアルコン（以下、フアルコン）は、オーストリアのマイヤーメルンホフ・フォレストテックニク社が、1962年自社で使うために開発して以来改良を重ねてきたタワーヤードで、今回使用の最新機種発売以来、日本各地に導入

されています。急峻な山岳地帯の多いオーストリアで開発改良され、日本向けに作られたクローラーモデルのフアルコンは、今まで車両系集材が主であった山形県においても今後導入が期待される機種です。

研修会では、最初に温海町森林組合の担当者から、タワーヤードが設置されている現場の状況、設置にかかった人工数や労働生産性などの説明がありました。架線延長170mで、タワーヤードが設置された林業専用道まで引き上げ、プロセッサで造材する作業システムになっており、タワーヤードの設置に2日、約6人の人工を必要としたことなどが説明されました。

次に、マイヤーメルンホフ・フォレストテックニク社の日本総代理店である緑産株式会社（神奈川県相模原市）からフアルコンの特性と優れた性能が説明されました。フアルコンは、主索の最長距離800m程度、最大吊上げ荷重2t、主索から70mの横出し作業が可能であるなどの説明がありました。特に、材を吊下げる搬器については、エンジンが搭載されておらず、2本のワイヤーで走行させるシステムで搬器を軽量化し、高速運転を可能にしていること、吊



搬器の構造と3線システムを説明

上げる場所に自動的に停止するなど自動制御システムが組み込まれていることなどが説明されました。

説明後、タワーヤードによる集材とプロセッサによる造材の一連の作業を見学しました。安全のため離れた場所からの見学でしたが、間伐材を吊下げて運ぶ搬器の速度に驚きの声があがっていました。

## ◆おわりに

研修が終わり、参加者からは「タワーヤードによる架線集材を初めて見て大変勉強になった」、「別の架線方式の研修もして欲しい」などの感想・要望が寄せられました。

〔山形県森林協会〕